

勝山小学校跡地検討会議（第3回） 会議録

1 日時

令和6年10月8日（火） 午後7時から

2 場所

勝山会館

3 出席者

（検討会議メンバー）

川本俊永委員、木村亜里沙委員、小西恵美委員、永田嘉昭委員、原田富士夫委員、
和田友祐委員（欠席：右近智子委員、金村雄仁委員、辻田みさを委員、三原美智子委員）

（生野区役所）

筋原区長、川楠まちづくり推進担当課長、山崎安心まちづくり担当課長、
杉山まちづくり推進担当課長代理、森本地域まちづくり課担当係長、
吉田地域まちづくり課担当係員

（傍聴）

なし

4 議題

（1）勝山小学校に代わる避難所の確保について

（2）勝山小学校の跡地活用で特に望まれる要件（案）の確認について

5 会議資料

・次第

・議事資料 第3回勝山小学校跡地検討会議（議事資料）

6 意見等

（森本生野区役所地域まちづくり課担当係長）

●本日はお忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので第3回目の勝山小学校跡地検討会議を始めさせていただきます。私は本日の司会進行を務めます生野区役所地域まちづくり課担当係長の森本です。どうぞよろしくお願いいたします。では着座にて失礼いたします。

●それでは議題に入ります前に、会議の位置付けについて説明させていただきます。本会議は大阪市の審議会等の設置及び運営に関する指針に沿って、生野区役所が主催する行政運営上の会合としての会議として開催いたします。なお本市の規則によりまして会議は原則公開とし、後日事務局にて、本日の内容をまとめた議事録を作成しまして、まち協内の掲示板への掲出や区役所のホームページへの掲載、町会の回覧などをお願いいた

しますので録音や撮影についてご了承のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 続いて本日の配付資料についてご説明いたします。まず、勝山小学校跡地検討会議第3回の次第がございます。次に、表紙がオレンジ色の、第3回勝山小学校学校跡地検討会議と記載された、本日の議事資料がございます。資料は以上となります。資料はおそろいでしょうか。よろしいでしょうか。（異論なし）

- それでは会議の開催にあたりまして、生野区長の筋原よりご挨拶申し上げます。

（筋原生野区長）

- 皆さん、こんばんは。区長の筋原です。お忙しい中、またお足元の悪い中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
- 前回の第2回目の跡地検討会議で、地域の活動や地域コミュニティの機能をどのように続けていくかということで、皆様からたくさんご意見をいただきました。
- そういったご意見を踏まえまして、まちづくり協議会の皆様にもご協力をいただきながら、地域活動の開催のための備品について、今は学校に保管されていると思いますけども、それが学校のどこに保管されているかということも教えていただくようなアンケート調査を行って、地域活動をスムーズに継続していくための準備作業を行っているところでございます。
- 本日は勝山小学校跡地検討会議第3回目ということで、勝山地域の防災拠点として、避難所等の機能をどのように確保していくかということで、跡地活用事業者に求める条件等々、当区の方で、考え方を整理いたしましたので、ご説明をさせていただきます、ご意見いただければと思っています。
- また跡地活用にあたりまして、勝山地域として、望まれる要件につきましても、今までのいただいたご意見を基に、区役所で案をまとめさせていただきましたので、そちらの方も見ていただきまして、ご意見いただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

（森本生野区役所地域まちづくり課担当係長）

- 続きまして、本日は勝山小学校に代わる避難所の確保について、ご説明等をさせていただきますので、区役所の防災担当者も同席をさせていただきますのでご紹介させていただきます。安心まちづくり担当課長の山崎でございます。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- はい。この4月から防災担当ということで、安心まちづくり担当課長に着任しております山崎と申します。今日はいろいろ皆様のご意見を聞かせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（森本生野区役所地域まちづくり課担当係長）

- それでは早速議事に入ります。表紙がオレンジ色の「第3回勝山小学校跡地検討会議」と記載された、本日の議事資料の方をご覧ください。
- それでは資料につきまして、まちづくり推進担当課長の川楠よりご説明させていただきます。

（川楠生野区役所まちづくり推進担当課長）

- 川楠です。どうぞよろしくお願いします。着座で失礼いたします。それでは資料1枚めくっていただきまして、こちらは毎回資料の方を入れさせていただいておりますけれども、整理が必要な項目ということで、1～7番までの項目で、いろいろご意見をいただきたく会議を開催させていただいております。本日は防災拠点としての機能をどうしていくかと、また避難所の鍵等ですね、管理に関してもどうしていくかというところは、今後の論点であるかなと思っています。こちらをご参照いただきながら、ご議論いただけたらと思います。
- 2ページでございます。繰り返しになりますが、本日の会議でご意見を頂戴したい項目を記載させていただいております。前半の部分で、勝山小学校に代わる避難所の確保について、ご意見を頂戴したいと考えております。後半につきましては、前回の会議でご意見賜りました、小学校の跡地活用で特に望まれる要件の案を、まとめさせていただいております。そちらについてご確認いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。それでは1つ目の項目、勝山小学校に代わる避難所の確保について、防災担当からご説明させていただきます。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- では、1つ目の議題になります勝山小学校に代わる避難所の確保について、私の方からご説明させていただきます。資料めくっていただきまして3ページになります。こちらをご覧くださいと思います。はじめに、全体的なスケジュールのイメージということでご説明させていただければと思っております。
- この間、跡地検討会議においてもお話をさせていただいているところかと思いますが、勝山小学校は、令和8年3月に閉校ということで、想定されており、その跡地について活用いただく事業者を募集することとしております。
- この募集にあたりまして、どういう事業者が来ていただけるのかということを含めて事業者の声も聞いてみるということで、今年度中、令和6年度中にマーケットサウンディングを行う予定とさせていただいております。
- このマーケットサウンディングを行う際に、勝山小学校の後を、例えばこういう条件で使ってくれる事業者が居るのかどうか、意見を聞いていく形になるのですが、このマーケットサウンディングを行う前に、今年の秋、年内ぐらいになるかと思っておりますが、新しい施設の活用計画案を作成することになっています。この計画案の中に具体的に条件として、新しい施設に必要となる避難所の条件を盛り込んでいきたいと考えているところです。この条件案をまとめていくために、この検討会議の場で皆さん方のご意見をお聞かせいただきまして、計画案の中に反映させていきたいと思っている次第です。
- 今申し上げましたように、新しい施設ということで、その条件をご議論いただくところですけれども、防災に関する大きな論点の1つとして、もう1点あるのが、学校の校舎を使わなくなってから新しい建物ができるまでの間をどうするのか、という話。この話も大きな問題として出てくると思っております。大体4年ぐらいになるのかなと想定しているところですが、こちらにつきましては、検討会議の場とは切り離して、別の場で、例えば町会長会議がいいか、防災の会議がいいのかその辺ちょっとご相談させ

ていただきたいなとは思っておりますが、そちらの場で議論させていただければと考えております。

- まずは、マーケットサウンディングがありますので、この会議の場では、新しい施設を募集するにあたっての条件案を、いろいろ皆様のご意見を聞かせていただきたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
- 続きまして、資料4ページの方をご覧くださいと思います。
- こちらにつきましては、勝山地域の中、もしくは周辺で、現在避難所として設定されている場所、それから、当該避難所につきまして避難可能人数を整理して記載しております。今回、勝山小学校に代わる避難所機能の確保ということになりますけれど、今現在、勝山小学校が690人を受け入れるという形になっております。今回跡地の活用ということで事業者募集していくにあたっては、この690人分の避難場所を確保するという大前提として、その上で、どういう条件を設定していくのか。ということで議論をさせていただきたいと思っています。
- 続きまして次のページをご覧ください。5ページでございます。こちらにつきましては現在の避難スペースということで、地域の中で会議等もしていただきまして、現在の勝山小学校のどの場所をどのように利用するのか、避難所となった場合にどのように利用するのかということを、お話し合いをさせていただいております。その状況について簡単にまとめさせていただいているものでございます。
- こちらがこういう形で（現在の避難所運営として）計画されている現状となっておりますので、参考にしていただきまして、この後ご意見を聞かさせていただきたいというふうに、思っております。
- 次の6ページをご覧ください。こちらは区役所で一旦たたき台として作らせていただいたものになりまして、新しい事業者を募集するにあたって、新しい施設の方に求める条件、として一旦整理をさせていただいております。大きくは3つのスペースということに分けており、1つ目が690人の避難スペースということで設定させていただいております。広さは1578㎡以上としており、複数の箇所に分けても良い、ということを書かせていただいております。また、とは言いながら1つのスペースで、全部完結するというにすることではなくて、最低限必要な救護所でありましたり、福祉避難室でありましたり療養スペースといった、それぞれのスペースを確保して、合計でここに書いております1578㎡以上を確保していただくという条件にしてみてもどうかということで、案を作らせていただいております。
- また、避難所が開設されましたら運営委員会が設置され、その従事スペースも必要になってきますので、現在の教室分を想定しておりますけれども、64㎡以上の場所は確保してください。ということで条件に入れさせていただいております。
- これらにつきましては、当然避難場所になりますので、実際に発災時には、物が置かれていたら困るという部分がございますので、机や椅子などの可動式の物品以外、は置かないでください。という条件で考えております。
- また、使用に係る条件として、災害時は当然開放していただくという大前提のもとにな

りますが、災害時以外にも平常時も防災訓練の際には開放してくださいということで、年2回程度以上という形でちょっと条件を記載させていただいております。

- それから、3つ目として備蓄倉庫ということで、これも大体今の教室、1教室以上ということで、想定しておりますけれども、床面積64㎡、それから天井高2.8メートル相当の容積以上とする。というようなことで、これらのスペースを確保することを条件として募集してはどうかということで、たたき台を示させていただいております。また、一つ目の避難スペースや、二つ目の避難所運営事務所スペースにつきましては、4点ほど記載させていただいておりますが、一番下のところ、この2つのスペースについては空調設備を設けるということで、条件を入れてはどうかという風に思っております。大阪市自体は、避難所である小学校に関して、空調設備の入っていないところもまだたくさんありますが、震災時を想定して、小学校の体育館なんかに空調設備を順次、設置する方向で考えていこうという議論になっております。今回、新しい事業者を募集する際には、これも条件ということで、空調設備を設けることを条件に募集をしてはどうかと思っております。
- 最後に、7ページをご覧ください。先ほどこの検討会議の場ではなく、別の場でいろいろお話を聞かせていただきたいというお話をさせていただきましたが、工事期間中につきましても690人の避難場所を何らかの形で確保しなければならないと考えております。
- 近隣にはプール学院や、大阪偕星学園高校がございまして既に避難所として指定はされているところですが、具体的に地域の方で避難所として使う計画にはなっていない状態ですので、この2つの学校と話をした上で、暫定的な、4年間を想定していますけれども、その期間避難所として使うこととしてはどうかというふうに考えております。
- ただ、前回の会議の際に、いろいろ議論いただいたというふうにお聞きしておりますけれども、避難所を2つに分けるのがいいのか、1つに集約するのがいいのか、というテーマもあるかと思しますので、その辺りも含めて、詳細はこの検討会議の場ではなく、違う場で意見交換をさせていただいて、方向性をいろいろご意見いただいた形で、学校等と調整を図っていききたいなというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。私の説明は以上になります。

(森本生野区役所地域まちづくり課担当係長)

- それでは本日の議題の1つ目、避難所の確保についてですね、ご意見等をお聞かせいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

(検討会議メンバー)

- 確か勝山小学校は、耐震（基準）が駄目だったんですよね。だから避難所としては…

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- 耐震は満たしているのですが、校舎自体が耐用年数を超えているので、もうそのまま使い続けることができないという状況で、そもそも前提として校舎を解体しなければいけないというところですね。

(検討会議メンバー)

- 今は、耐震は大丈夫ということやね。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- はい。大丈夫です。大阪市の小学校は、すべて耐震基準を満たしているということで、勝山小学校の場合は、耐震基準は同様にクリアしておりますが、耐用年数、築年数が経ち過ぎてしまっているのも、それ以上はもたない状況だということです。

(筋原生野区長)

- 躯体はもっても、壁とかが難しいですね。剥がれたりして使えなくなってしまう。

(検討会議メンバー)

- そうですね。例えば、逃げていって、何町会はこの教室やって一応書いていますよね。その時にもう、階段が使えないとかね。そういうことも、あり得るわけですね。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- そうですね、壁や階段とかが崩れかかっているから、ちょっと使えないというのは、場合によってあり得る話ですね。

(検討会議メンバー)

- プール学院や大阪偕星学園へは、こんな話があるよという、概略みたいなものは伝わってますか。了承は得ているのでしょうか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- もちろん、話しており、使ってくださって良いですっていうお話をいただいております。当然、部屋によっては（使えない場所というのは）ありますけど。

(検討会議メンバー)

- （避難所を）分けるのはちょっとしんどいそうですね。
- 運営するとなると（開設の）内容をわかっている人間が、そんなに居ないですからね。
- 地震が起こる時間帯によるね。昼間やったら大方みんな居ない。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 確かに、2ヶ所に分散すると、1ヶ所であれば分かる人間が1人居たらなんとか回せるとしても、2人絶対いるようになります。1ヶ所だったら1人居たら、何とか指示とかできる。そういう面では分散すると、大変になる部分もあります。

(検討会議メンバー)

- だから、1回みんなとにかく勝山小学校集まって、何町会から何町会は、プール学院に行ってくださいという分散を、小学校でやらないと。みんながバラバラにあっち行ったり、こっち行ったりすると、どこの町会の誰がどこに居るか、わからないこともあり得るわけですね。
- 勝山小学校にも集まれるかどうか。もと勝山小学校に。

(筋原生野区長)

- 災害時の避難のときは、まずどこかに町会等で集まっていただいて、やっぱり、日頃顔の見ての方が一緒になって避難していただいた方が、健康面とかで全然違ってきますね。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 知らない顔の人ばかりだったら、しんどくなる…。

(筋原生野区長)

- うん。生野区はそんなに長期間の避難は考えにくいところではありますが。一応、僕はベイエリアが長いですけど、ベイエリアだったら津波で、そんなときでも、例えば、一旦、どっかに集まって、公園へ避難する、というようなパターン…。

(検討会議メンバー)

- これ、大阪偕星学園だったら、東桃谷も入ってくるんじゃないですか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 東桃谷の地域としては今、大阪偕星学園を避難所として使うということは想定されてないですね。

(検討会議メンバー)

- そしたら例えば勝山地区の人は大阪偕星学園に行ってくださいとか、プール学院行ってくださいって、1つにまとめる方が、やりやすいんじゃないですかね。
- 一応地区としても、防災用のケースがあって、一番に来た人はこの箱を開けてください、そこから、誰それさん、誰それさん、誰それさんって（人ごとに役割分担を）決めているんじゃないくて、1番に来た人は、この仕事をしてください。2番目に来た人は、この仕事をしてくださいっていうプラケースを用意してあるんですよ。で、それがもしどっかの学校に、大阪偕星学園やったら大阪偕星学園、プール学院やったらプール学院に（避難所が）行くんやったら、それ（プラケース）をそこに、この工事期間中は置かせていただくっていう風にすれば、避難時にはそのケースを開けたら、指示書通りに動けるので、2ヶ所に分かれるよりは、その方が良いと思います。
- 2ヶ所に分かれたらね、誰がどっち行ったのか、なかなか把握しにくい。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- その辺り、（暫定期間中の避難所機能確保に関しては）まだ少し時間あるのかな、と思っておりますし、また皆さまとお話させていただいて、皆さまの希望を聞かしてもらった上で、学校等と調整へ入っていきたいと思っております。
- まずは新しいところを、どういう条件をつけるかということで、6ページ、勝手ながら作らせていただきましたが、ここはどうでしょうか。

(跡地検討メンバー)

- 基本的なことになるけど、今回の制度、（避難受け入れ人数が）690人。おそらく住民、勝山地域の住民の何%とか、どこでもそうだと思いますが、この690人が、僕は、おかしいと思っています。収容できるのか、ということからだと思いますけど。それなら、例えば、大阪偕星学園はどれぐらい収容できるのか。詳しいことがわかったら、教えて欲しいです。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- はい。4ページにちょっと書かせていただいております、大阪偕星学園もそうですし、プール学院もですが、こちらの方が広く、1220名の受け入れが可能となっております。先ほどと重複になりますが、この2校とも、どこかの地域がプール学院や大阪偕星学園を（避難所に）使おうという計画には、まだなっていない。現実的には、おっしゃられているように、地震の規模によって想定している人数以上が避難してくるということで、

生野区内全体を見渡したときに「やっぱり場所がないから、こっち行って」という話も正直なところ出てくる可能性はあるとは思いますが。現状はプール学院や大阪偕星学園に、別の地域の方が避難しに）来られるという計画にはなっていないです。

（検討会議メンバー）

- これあれですね。1人あたり何㎡で計算するというのは決まっていますよね。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- はい。基準で決まっています。

（検討会議メンバー）

- その基準で割ったら、この人員になる。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- そうです。

（検討会議メンバー）

- プール学院であれば、グラウンドとか空いてる場所が多いから、もっとキャパ入るんじゃないんですか。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- この数字は避難所部分ということで屋根があるところになっています、グラウンドは、一時避難場所としての計算がまた別にありますが、その数字とは違う形になっています。

（検討会議メンバー）

- この地区はすごく密集した地区じゃないですか。そしたら焼き出される人の方が多いのかなっていうふうに思っていて。690人では、とてもじゃないけど、足りない人数が逃げてくるんじゃないかな。
- うん。震災でね、家が潰れる、まあ新しい家は潰れへんけど。そこの周りがね、火で包まれたら、これは、家は大丈夫だとしても、周りから、逃げますよね、蒸し焼きになる。

（筋原生野区長）

- 火災の場合は、確かに能登半島のときの輪島のところが燃えましたように、生野区は密集市街地があって、非常に心配なところがありますね。今、消防署とも、シミュレーションをしていますけども、やっぱり正確なシミュレーションって、ちょっと無理なんです。その日の風の状態とかによって。ですので、結局、万が一、燃え出したら、消防の方が判断して、状況によっては、ここは勝山小学校の跡地（が避難所）ですが、そこも危なくなる可能性もありますので、そうなるともっと東とか、別の小学校へということで、そこも危なくなったら、ここへ。もっと燃え広がってきたら、今度は勝山通りと、ちょっと今里筋抜けて、大阪城公園とか。そういう形で、その状況に応じて、消防署の指導に従って避難をしていくという形になる。所長とだいたい話していますが、鶴橋の市場がね、あそこは燃え出すと危ない。消防署って区役所の前に出張所あって常に消防車2台置いています、あれは鶴橋の市場が万が一燃えたときにすぐ出動できるように、常設にしているんです。

（跡地検討メンバー）

- 我々の地域が縦長やからね。端に住んでいる者に、プール学院まで（避難と）言われたら

やっぱり遠い。場所としてはなるべく真ん中にしたら僕は避難しやすいなと思います。

- 生野西の方は未来学園に行かないと仕方ないよね。
- 勝山小学校でも堪忍してくれ、と思いますからね。ここ（勝山小学校）近辺の人が、うらやましいところはある。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- 実際にどういうふうに、というのは、我々が思っているのは、町会単位でどこに避難するのかという形。やっぱり一定のコミュニティの繋がりがあるので、やっていただいた方が良いのかなと思いますが、そこはそれでまた議論して、我々も意向を聞かせてもらって、またその関係先に調整していこうかと思っております。
- まずは、先ほど少ないというご意見もいただきましたが、今入れる 690 人という部分を新しい所でも確保していくことを条件にしていきたい。その上で（暫定期間中に）地域の皆さんがどこへ避難するのかというのは別で意見交換させていただけたらと思っております。

（検討会議メンバー）

- 地域の住民は、要するに被災者ですよ。そうするとボランティアの受け入れとか、それの捌きとかもありますね。これ、今ね、能登の水害の方でも、もうボランティアやっぱり入ってこない。住民では、無理やと。阪神淡路大震災のときにボランティアを一年間しましたけども。阪神淡路大震災のときはやっぱり長田、火災ですね。すごい被害があったわけですよ。だからやっぱり火ってというのは、こんな狭いところは、一番怖いんです。震災で揺れるのは、何分間か揺れて、「家何とか持ったわ」って言って済むかもしれないけども、後の問題になってきたら一番火が怖いですよ。

（検討会議メンバー）

- 数年前、台風で避難所を開設した。勝山小学校も開けましたけど、台風過ぎても、お年寄りの方が、「家で一人居るのは怖い」、「避難所に残りたい」という声が結構あったんです。台風でも避難所開けることになるとは思うんですが、そうすると、プール学院や大阪偕星学園に分散していたら收拾つかないので、1か所にまとめた方が。そうしないとプール学院と大阪偕星学園の状況を、両方を誰かが把握して、コントロールするというのは無理やと思うので。台風でも起こり得ることなんで。その時に、避難所はここっていうのを皆に周知できたら。
- あと、トイレに困った。勝山小学校が和式ばかりだったと。お年寄りの方（がトイレに行かれるときに）、介護して連れていってくれはったけど、男は女性を連れて行けなかった。トイレの状況は、またちょっと…
- 勝山小で避難所開けた時は、車いすが入れなかった。体を支えてトイレに連れていく、車いすが入れるトイレが無い…。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- （暫定期間中の避難所候補について）トイレの状況は調べておきます。

（検討会議メンバー）

- ご病気の方も、居られますよね。その時に地域としてね、看護師さん、それからヘルパー

さん、その辺の把握をしておく必要があるのかな。

- うちには看護師さん2名把握していますよ。
- 訪問看護師さんね。私も含めて、近所の人でも居ますが、もう、そこからそこまで歩くのも困難な人が居ます。その人がオシメをしている、いろんなものを貼っている、それを取り替えないといけないってなると、やっぱ看護師さんでないとできない。みんな「用意していますよ」「ストックしていますよ」って言うけどね。そんなものまでストックしてないですよ。そういうことも踏まえた、要するに病気をもっておられたり日常生活が困難な人たちに手厚い看護やとか介護ができないと。元気な人はええねん。
- 一応勝山地域にも、備忘があります。必要なものがあれば、そこに書いてもらう欄があって、個人の情報を皆で見る訳にもいかないので、各町会長さんが、この人はこういう物が居るっていうのを把握する流れになってはいます。あれからでも3年ぐらい経ってますね。だから3年間の間に、当然いろんなものが進行する方も亡くなられる方も居られると思うし、最新の情報ではないけど、一応必要な物は、提出(申告)いただいています。まあ出してないかたもいらっしゃるでしょうけど。万が一の時にはそれを見て、(必要なものがあるなら)ここに書けって言うことはせなあかんと思います。
- うん。そういうのを、こういうものがいますよ、(という申告があれば)それをストックしておかないとあかん。要りますよだけでは。本人が持ってくれば良いけどね。本人が持っていなかったときのために、ストックはしておかないと。例えば人工肛門ってやつですわ、それは換えられるのは看護師さんしかできない。生野区がそういう訪問看護の事業所と契約してるところもありますよね。

(筋原生野区長)

- 生野区は割と訪問看護が進んでいると思います。コロナのときにKISA2隊というコロナの在宅治療、診療を行うチームがありましたが、あれの大阪代表は生野区の医院の先生で、具体的な災害時の対応は医師会等とも相談されているかと。ほかの区に比べてかなり充実しているという実感はあります。

(検討会議メンバー)

- 本当にこうね。自分が年を取ってきて病気をして、いろんなことをしてもらうようになってきたら、避難所へいったら「これ、誰かやってくれるのかな…」という心配はあります。若い元気な人、病気のない人は、いろんなことを自分でできるから、別に人を当てにせずにいける。元気な人は避難所行ったら、そういう(病気の)人とかを何とかしてあげてねっていうのはわかるけども。病気や介護してもらっている人にとっては、ものすごい些細なことを心配してる。
- これ今話しているのは、あくまでも5年間の話。ということで良いですよ。勝山小学校の跡に、もし何かできてそこに…ずっとの話？。

(筋原生野区長)

- ずっとの話の方ですね。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- そうですね。それ以降の話を今日は、お伺いしたいと思っております。

(検討会議メンバー)

- もし元勝山小学校のあとに何かができるときに、こういう状況で避難所を設置する、ということなんです。今、大阪偕星学園とかの校舎を借りるのをお願いするっていうことじゃないということですね。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- はい。

(検討会議メンバー)

- 例えば、どこまで決まっているのか分かりませんが、勝山小学校跡地を借りる事業者に、その時に、「これとこれとこれ、これはごめんね。お宅せっかく借りていただいたけども、地域に使わせてね。」っていう話し合いですよね。これはやらないかんよね。

(筋原生野区長)

- それはマーケットサウンディング…

(検討会議メンバー)

- その時にね、「いや、私のところが借りてるのに、そんなことまで言われたら…」っていう、あまりこう無理なことを言っちゃうと。借りるのをやめようかっていうことになったら、これまた困るしね。

(筋原生野区長)

- です、見ていただいているこちら、条件が一定取りまとまったら、マーケットサウンディングという形で、この条件でどうですかと意見を聞きます。それで、この条件でOKですよと言われるか、ここはちょっと加減して欲しいとなれば、また持ち帰って、地域の皆さんとご相談して、こんな意見出てましたというやりとりで、具体的な公募のときの仕様書を固めていくという感じです。

(検討会議メンバー)

- (暫定期間中の避難所には) 車いすが入れるようなトイレはあるんでしょうか。学校の決まりで障がい者用のトイレを1つなり2つなり作らないといけないというような決まりがあったりするのかな…。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 現状は別途確認します。

(検討会議メンバー)

- 勝山小学校にも障がい者用トイレは1つだけある。
- ほんまですか。
- あるねん。我々百貨店とか行っても車いす用トイレが何階にあるのか全部確認しとかなないとね。
- 避難所として考えたらあるほうがね。そこまで言えるのかどうかわからないけど。(資料としては) これだけ入れてもらっといたら十分ですよね。
- まあね。個々に言い出したらね、階段も登れない人も居る。家の前のガレージにも行けない。そんな人も居るけど、それ言い出したら、一人ひとりに合った避難所のスペースを作らないといけない。それはもう勘弁してもらわないわな。

- うん。そういう人たちが行ける場所をね。
- 区民センターとか区役所も避難所になるんですか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 区役所は避難所ではなく本部になる。区民センターは、ボランティアの方のセンターになるので、避難所としての計画はないです。

(検討会議メンバー)

- スポーツセンターはどんな使いかたをするんですか。災害のときは。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 今想定しているのは遺体安置所です。

(筋原生野区長)

- 重要なんですよ。

(検討会議メンバー)

- そうですね。西宮市役所のときは避難者と同じ場所の、別のフロアで安置されていたので、避難してはる人にはすごいプレッシャーがあって、結構「これはしんどいな」っていうのがありましたね。
- 新しい事業者に、例えば地域で使う防災倉庫を貸してくれということは、お願いできるんでしょうか。もちろんこちら側で用意はする、中に入れる物品は地域の予算でやるけども。場所の提供の相談。
- それ3番じゃないんですか、6ページの3番、これはまた別？
- これは別じゃないんですか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- これは役所の方で設置している備蓄倉庫のイメージですね。もともと水とか、アルファ化米とかそういうものを倉庫の中に入れていますが、そのイメージ。

(検討会議メンバー)

- ああ、そしたら、今の…前の放送室のイメージ？
- そうそうそう。

(筋原生野区長)

- そういうのは今まさに地域活動で使う備品とかをお聞きしているかと思いますが、その中に、防災活動としても、実はこういう物を学校に置いているというものがあれば、それを一緒に出しといていただければと思います。

(検討会議メンバー)

- 学校に置いているのは放送室にあるものだけですよ。他に置いてないでしょ。
- うん。あとは大阪市の消防の方が置いてくれてはる、可搬式のポンプのが、1つ。理科室の横のそこ。
- 可搬式ポンプはどうなるんですか。あれは学校のものですか？
- 市のものやと聞きました。消防が全部管理してはります。点検も含めて。
- あと未来学園には水槽がありますね、下に。水をためるところ。
- あります。勝山小学校にもありますよ。運動場のところ。で砂場の横のところに、ポンプ

の取水口がある。

- 各小学校にはあるけど、（学校が）なくなったらどうなるのか、という事やろうけど、あった方が良いでしょうね。

（山崎生野区役所安心まちづくり担当課長）

- よその学校の話で言いますと、管理しなくなるので、ボウフラがわくからいらない、というご意見もあるようですが、今日その辺は確認できておりませんので、消防に一度話を聞いてみます。

（検討会議メンバー）

- うん。だから消防がそれを全部管理してくれていて、何ヶ月かに1回エンジンかけて、動くか見てくれている。オイル交換もちゃんとしてくれている。その可搬式のポンプは消防が管理してくれて、ホースは何本か用意してくれているっていう感じで、何かあったら、場所はここにあって、それを向こうから持ってきて、ここにつけて、それで消火活動してください、っていうふうな話にはなっています。それが今度新しい事業者もOKしてくれて、そのタンクも、運動場に（設置）させてもらって取水口があって、ポンプ置くところがあってっていうふうな形になるのかどうかというのは、ちょっと。

（筋原生野区長）

- 消防にちょっと確認せなあかんと思います。

（杉山まちづくり推進担当課長代理）

- 可搬式ポンプについて、いろいろ見ていると消火栓から直接（取水）できる例もあるというのは見たりしています。必ず防火水槽から（水を）取らなくても、消火栓から、取るというやり方もある。どちらにしても今おっしゃられたとおり暫定期間も含めてそのポンプの取扱いがどうなるっていうのは…。

（検討会議メンバー）

- そのね、取水口のところとは別に、裏のところにも直接ホースはつなぐところがあります。誰から聞いたのかな…プールの水がどこかに繋がっていて、その水を使うっていうふうに誰かが言っておられたけど、ほんまかどうかはわかってない。確認してないんで。

（杉山まちづくり推進担当課長代理）

- はい。プールはプールで消防水利として、それとは別途、防火水槽を…

（検討会議メンバー）

- プールはいつも水はってあるの？ずっと？
- 張ってます。ずっと。ずっと張ってないとプールが割れてしまうんです。

（杉山まちづくり推進担当課長代理）

- その辺りはまた新しい事業者に課すべき条件としてどこまでするのかというお話になりそうですね。

（検討会議メンバー）

- あと、運動場の電気。小学校は運動場にスポットライトあてるように水銀灯がついてますけど、そういうふうな照明施設をつけてもらわないといけないのかなと。
- あの、すみません。今のは工事期間中の避難所についてですか。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- 新しい施設ができあがってからの話です。

(筋原生野区長)

- 工事期間中は、工事やっている間使えないので、別の場所を…

(検討会議メンバー)

- はい。工事期間中は使えないから、別の所をどこにするのか、という話になって、ここが良いのかなっていう話になって、それを決めたら、新しい施設ができて、もうそのまんまということですか？

(筋原生野区長)

- いえ、新しい施設ができたならまた…

(検討会議メンバー)

- 新しい施設ができたなら、避難所が勝山小学校跡地に戻ってくるってということですよね。

(筋原生野区長)

- はい。

(検討会議メンバー)

- わかりました。
- あの、子供も…小さい赤ちゃんとかも、もちろんいると思います。私はもう、おむつしてるような子は居ませんが。そういう、おむつを換えたりするスペースっていうのは、福祉避難室になるんですか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 福祉避難室は、高齢の方やご病気の方をイメージしてまして、5ページが、今の小学校の使い方ということで、みなさんでお話していただいてるかと思います。今おっしゃっていただいたところで言いますと、女性専用スペースというところに近いのかなと思っております。条件としてどこまで書き込むか悩んだところですが、皆さんの意見をお聞きしてという考えもあります。あまり書き込みすぎると条件が多くなる部分があったんでちょっとこう書いたのは3ヶ所に限定はしたところだったんですけども、その辺りもちょっと…。

(検討会議メンバー)

- 避難者ね、話があったけど、小さい赤ちゃんは泣く。そうすると避難してる人たちがやっぱり苛立ってくるのね。「泣かすな」とかね。そうすると親は連れて出て行かないといけない。寝かしてから帰ってくるとかね。そんなことは、今まで避難所で何回も見えてきたんですけども、やっぱり小さい赤ちゃんはどこで避難するのかというのも、福祉の避難所ではなしに。赤ちゃんは特に知らん人が来たりしたら泣くからね。夜中に泣かれたら寝られないといった問題はあると思うね。細かいこと言っているのはしょうがないんやけど、そういうのを想定はしといた方が良くと思いますね。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- また次回、もう少し（スペースを）分けて考えるような形で、示させていただきます。

(検討会議メンバー)

- あと、発達に課題のある人、同じ発達障害とか。そういう人達がやっぱり団体生活ができない人が、居る場合にも親は、ものすごく気を遣う。

(筋原生野区長)

- それは福祉避難所ですね。そのために別途、通常の避難施設とは別に、福祉避難所の連携協定を結んでいますので、そちらに行っていただく。すぐ移れない場合は、この福祉避難室のスペースになります。

(検討会議メンバー)

- 5 ページに障がい者室っていうのを、別にとってあるみたいです。
- この障がい者の場合ですけれども、身体障がいの人も居れば、そういう障がいもあります。その区別っていうのがわかれへんね…。

(筋原生野区長)

- これはもう本当に障がいの内容によってそれぞれですね。また内容によっても様々です。普通の避難所は、そもそも無理だという方もおられます。前の台風の避難のときに、いつも居る犬と一緒に居たいとか、本当にいろいろパターンがあるので…

(検討会議メンバー)

- ペットは？
- (ペットは) ペットで考える。せやけどペットは…。
- ペットはやっぱり運動場のどっかのスペースでやらないと。匂いが嫌やとか、うるさいとか。
- あの、障害者の施設福祉施設とか、そういうところは避難所としては考えないんですか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- あらかじめ福祉避難所になってくださいということで、依頼をしております、実際に(避難者に)そういう方が居るよという情報をいただいたら、我々の方が避難場所として福祉施設に連絡して受け入れていただくということにしています。

(検討会議メンバー)

- ああそう、そしたらそういうところもあるという…。
- うちの並びにね、そういう施設があるんですよ。そこは地震とか、うちの町会の人々が逃げてきてくださいねと。そのスペースはありますって言ってはります。そういうところを何か所か押さえていかんとね。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 区役所として何ヶ所か今押さえている状態ではあります。

(検討会議メンバー)

- 新しい学校に(避難所が)できたら 690 人分の食糧とか毛布とかは、市が用意してくれないんですか。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- もちろん今置いているのと同じような形で用意します。

(検討会議メンバー)

- あれそんなに数ないですよ。

(山崎生野区役所安心まちづくり担当課長)

- 実際に置けるのはスペースに限りがあるので 690 人っていうわけじゃなく、もちろん人数的には少ないです。それ以上の分は区役所にもあるのと、あと、大阪市の倉庫がありますので、区役所や、大阪市の倉庫から持ち込んで、3 日間はそれで食いつなごう、という計画になっています。

(検討会議メンバー)

- 何か避難所を開設したとき、毛布は 1 日 1 枚やとか言われたよね。2 日にわたって避難したらもう一枚配布してもらえるけれども、1 日目は 1 枚やって、なんかもう、うん。
- 冬やったら寒いよね。夏やったらいらんけど。
- まあ家から服持ってきてもらわんと、ね。手ぶらで来て学校になんでもあると思われたらね…。
- うん。ちょっと落ち着いたらね、取りに帰ってもらっても構わないですよ。
- でも実際そうでしたやん。こないだの避難所あけたときも、一回目の食事の分はあるけども 2 回目 3 回目の分はないと。一日居るような感じになっていたから、食べるものがない。
- あれもね。ある町会はそれを用意していたり。
- そうです。あれ問題でしたね。
- うん。ないところもあるし。
- そうです。ないとこの町会から避難してこられた人は指くわえて見るしかない。
- 町会単位でね、ちょっと食事を用意した町会と、していない町会があって、揉めた、というかトラブルになったんです。
- いまだに忘れられない。そんなこともあったなと思う訳です。
- お湯もって来いって言われたこともあったね。
- ありましたね。でも災害だから電気が消えたら使えないものもいっぱいありますよね。
- いろんな人いると思います、ほんまに。
- それを説得する人がいますね。
- 説得は無理ですよ。いや災害のときも問題になっていましたが、(避難中は) 仕事が無いでしょう。そしたら、ちょっと離れたら自販機でお酒が買える。それでお酒買って飲みはるんです。そうしたら大きい声で騒ぎ出すし、いびきでゴーゴー言うし。昼間は暇やからまたビール…とか。もうそんな人もいっぱい出てくるって考えたら、避難ってすごい大変ですよ。
- 私も神戸のときにね、若いボランティアの女の子に絡んでいる人がいた。女の子泣いてやった。そのおっちゃんに「そんなあほなこといいな」って説得したことがある。いろんな人居ますよね。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- そうしましたら、本日ご提案させていただいたこちらの条件を、一旦跡地の活用計画に盛り込んでいくということで、ご確認いただいたということよろしいでしょうか。

(検討会議メンバー一同)

- はい。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- では個別にいただいたご意見は、また精査しながら設定していくということでよろしくをお願いします。
- それでは資料に戻っていただきまして8ページでございます。2つ目の項目といたしまして、勝山小学校の跡地活用で特に望まれる要件を、いただいておりますご意見を基にまとめていきたいということでございます。
- 8ページ、おさらいになりますが、前提の望まれる要件として、共通項目として、3項目挙げております。

跡地活用のまちづくり構想に基づきまして、こういったことを示しております。

このプラスの部分として、地域として望ましい要件を設定していきたいということで、これまでご意見を頂戴してきたということでございます。

続いて、9ページ、これもおさらいでございますけれども、他の跡地活用で、特に望まれる要件として設定した、それぞれの地域で設定された内容と、その結果、進出された事業者がされている活用の内容ということで、食を中心とした複合施設であったり、インターナショナルスクールだったり専門学校だったり、となっております。

- 続いて、10ページです。これまでいただいた主なご意見をまとめております。地域との間で繋がりがあって、地域に協力的な学校等の教育機関がありがたい。2つ目、勝山地域には大きな空間がないため、子供を遊ばせる広い場所が少ない。みんなが集えるような広い場所があるだけで、子供が集まる。子供が集まれば人が集まる場所につながる。3つ目、勝山小学校に行って、子供もお年寄りも遊ぼう、というような憩いの場になって欲しい。4つ目、地域と事業者、共存共栄できる関係であって、活用事業者と地域住民をつなぐコーディネーター、アドバイザーのような存在が必要、といったご意見。5つ目と6つ目は、字体を変えておりますけれども、校舎解体を行政で行うなどして、活用事業者にとって、過度な負担となること避け、より良い事業者が参入しやすくなるよう工夫して欲しい。活用事業者に、地域の思いがしっかり伝わるようにして欲しい。ということでございます。このようなことを、10ページ、11ページで、表のような形で、まとめました。軸をとりまして、ソフト面ハード面という軸と、抽象的か具体的かという内容の方からの軸をとり、ぱっと見ていただけたらなということでございます。
- 最後、ご提案ですけれども12ページです。こういうことを我々なりにまとめてみました。読み上げさせていただきます。

「地域と共存共栄し、地域活性化や交流に寄与する教育機関など、様々な学びの場や多世代の繋がりを育む、憩いの場となるもの。」

こういうことを、勝山地域としても、特に望まれる要件として設定してはいかがかということでもまとめさせていただきました。この点についてご意見いただければと思います。

(検討会議メンバー)

- そうやね。はい。今日はこれぐらいで。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- 今までいただいたご意見ではありますが、特に異存ないことを確認させていただきました。こちらにつきましても、先ほどの防災の条件と同じように、跡地活用計画の中に入れ込みまして、一旦計画案を作っていきたいと思います。また次回それはお示しできたらというふうに思います。

(検討会議メンバー)

- ひとつ聞いても良いですか。生涯学習ルームは、工事中のときは全くやらない形になりますか。それともどこかを借りてするのでしょうか。
- 統合先。生涯学習ルームは統合先やから東桃谷か未来学園かという話を進められている。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- 前回ご説明をさせていただいた部分がありますが、生涯学習ルーム事業や学校体育施設開放事業、各地域で運営委員会を立てられて活動されている内容のものは、東桃谷小学校の地域の方々の運営委員会で話し合ってもらう。それで統合できる部分とか、折り合いのつく部分をいったん探っていただく。基本的には新しい所へ統合してください、というお話ですけれども、そういう話し合いを順次別の担当の方で仕切らせていただいて、進めていただく形で段取りを組んでいるところだと思います。

(検討会議メンバー)

- 生涯学習は僕も関わって、切り絵を教えますが、お年寄りにはね、遠いところへは行けない。勝山小学校だから来ている。勝山会館ぐらいなら行けるけどね。東桃谷までは…

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- その辺りはまた、基本的に活動場所がそういう事業なので学校でないとできないとかといったことが、あるかもしれないので、その辺は話し合いの時に条件面等を確認していただく。会館でできる部分はしたら良い、というのは、すごい良いアイデアやと思いますが、事業の制度上の縛りがどのぐらいあるか、私にもわからないので、別途話し合いを進めていただく形になります。

(検討会議メンバー)

- サッカーとかバレーボールとかも同じ感じですよ。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- そうですね。活動が盛んであったりすると、新しいところで一緒になって活動できる時間帯とかスペースがあるとか、その辺も含めて調整になると思います。

(検討会議メンバー)

- 例えば勝山サッカー、勝山でないとアカンのかというのもありますよね。他所からもいっぱい入っている。それはどうするのか、とかね。

(川楠生野区役所まちづくり推進担当課長)

- その辺り詳しいことはわかりませんが、基本的には地域、その小学校区の方が活動するので、小学校のスペースを空いているときに使わせてほしいというような事業の組み立てなので、基本的にはその地域の方が中心なのかと…

(検討会議メンバー)

- ほんでね。一回うちでたそがれコンサートの時にサッカークラブが、練習をやると言っ

て、地域は「アカン」と言った。地域の行事をやるのに。「いや、いつも使ってる」って言っていた。「いや、いつも使っているかもしれないけどアカン。」そしたら、「体育館を使わせてくれ」って。まあ、その日は体育館でしていましたが。あとはソフトボールもしていますね。

- 全部把握できてないね。いろんなところがやってるじゃないですか。だから誰も全体をつかんでない。
- バレーボールもしています。夜。
- それはどこ主催。PTA？
- 違います。学校に施設開放っていうのがあって、そこが仕切ってやっていますが、体育館とグラウンドとで分けて。
- 学校の行事やったら僕ら大体わかるじゃないですか。でもいろいろそうならきたら全然つかめてないので、結局…。
- まち協行事ではないからね。個々にやってはる。
- ちゃんとやってはるんやけど、我々は掴めてない。
- そういうルールもきちっと作らないとね。あそこには貸してるのに、ここはアカンとかになっても困るからね。

(森本生野区役所地域まちづくり課担当係長)

- ありがとうございます。本日たくさんのご意見いただきありがとうございます。またご意見の方整理させていただきまして、学校跡地検討会議のニュースとしてとりまとめの方をさせていただきまして、地域の皆様への周知などさせていただきたいと思っております。次回の検討会議ですけれども、今回の検討会議の内容を地域の方へ周知させていただき期間もございますので、約2か月後、また開催したいと思っておりますので、日程につきましては調整をさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。それでは以上で第3回検討会議の方終了させていただきます。長い間ありがとうございました。